

『普通話三千常用詞表』と『水滸』 多音節形容詞 1

中 村 浩 一

On Common Words of Modern Chinese in “*Shuihu*” Adjective of Many Syllables 1

Koichi NAKAMURA

はじめに

教室で中国語を教えていると、教科書に出てくる普通の言葉について、この言葉はいつ現れたのだろうか、どのような意味の変遷があったのだろうかというような疑問を持つことがある。しかし、この問題を解決するのは簡単ではなく、多くの研究を必要とする。

本稿ではその研究のごく小さな一歩として、現代中国語に現れる常用の多音節形容詞の『水滸』における意味、用法を検討したい。

現代中国語の常用語についてはいろいろ検討する必要があるが、本稿ではとりあえず『普通話三千常用詞表』を用いたい。また、現代語の資料としては『現代漢語詞典』（『現漢』）を用いる。

多音節語をとりあげたのは単音節語に比べて変化が大きいのではないと思われること、語の認定が単音節語に比べて比較的容易であると思われること等からである。

『普通話三千常用詞表』にあげてある多音節形容詞のなかで、そのなかのいくつかは語、もしくは形容詞とみなせないものがあるので、これらは対象から除く。『普通話三千常用詞表』では形容詞を1～7の項目に分けてあるが、本稿では紙幅の関係から以下の2項目を取り上げる。

1. 人や事物の形や性質、状況を形容するもの
2. 事物のみえない性質を形容するもの

現代中国語の多音節形容詞は以下の3項に分けることができる。

A. 『現漢』と異なるもの

『水滸』における意味範囲と『現代漢語詞典』にあげる意味範囲がまったく異なるか、一部が異なるもの。

B. 『現漢』と同じもの

『水滸』における意味範囲が『現代漢語詞典』のあげる意味範囲に含まれるもの。

C. 『水滸』にないもの

『現代漢語詞典』には採録されているが、『水滸』にはないもの。

テキストは鄭振鐸校訂『水滸全傳』を用いる。

1. 人や事物の形や性質、状況を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 高大

『現漢』には (1) 「高くて大きい」 (2) 「(年を) とっている」 (多く早期白話に見られる) という意味があげられているが、『水滸』では「(年を) とっている」という意味で用いられている。

開封府公文,只叫解活的去,卻不曾教結果了他。亦且本人年紀又不高大,如何作的這緣故? (8・128「第8回 128 頁」以下同様)

我的官司,此去不要你們憂心。只有父親年紀高大,我又不能儘人子之道,累被官司纏擾,背井離鄉而去。(36・565)

今日請下報恩寺僧人來做功德,就要央叔叔管待則箇。老漢年紀高大,熬不得夜。(45・731)

この語は「B.『現漢』と同じもの」項にあげるべきであるが、現代語では「(年を) とっている」という意味では用いられないのでこの項にあげる。

2. 乾淨

『現漢』には (1) 「清潔である」 (2) 「(動作や話し方が) さっぱりしている」 (3) 「残っていない」という意味があげられている。『水滸』では (1) (3) の意味で用いられている。

(1) 清潔である

抹得桌子乾淨,便將出那綾綢絹段來。婦人將尺量了長短,裁得完備,便縫起來。(24・374)

取雙鞋襪與他穿了。將片白絹蓋了臉,揀床乾淨被蓋在死屍身上。(25・399)

拿了,再到溪邊,將這香爐水裏浸了,拔起亂草,洗得乾淨,挽了半香爐水,雙手擎來,再尋舊路,夾七夾八走上嶺來。(43・698)

(2) 残っていない

把這砒霜下在裡面,把這矮子結果了。一把火燒得乾淨淨淨的,沒了蹤跡。(25・397)

扈成那廝走了。扈太公一家都殺得乾淨淨淨。兄弟特來請功。(50・829)

將片白絹,蓋了臉。揀床乾淨被蓋在死屍身上。卻上樓來收拾得乾淨了。(25・399)

『水滸』ではこのほかに次のような意味で用いられている。

(1) 気持ちがさっぱりする。

武松道：不曾害，不曾害！打了倒乾淨。我不要留這一頓寄庫棒，寄下倒是鉤腸債，幾時得了！（28・439）

李逵道：好卻好，只是有些惶恐。不如割了頭去乾淨。（73・1233）

武松罵道：腌臢反賊，早早把俺砍了乾淨！（95・1520）

(2) 罪を犯していない

朱武等三個頭領跪下道：“哥哥，你是乾淨的人，休為我等連累了。（3・43）

(3) 面倒がない

捨着還了他十兩金子，着陸謙自去尋這和尚便了。我和你只要躲得身上乾淨。（9・136）

(4) とがめがない

二位長官莫怪！鈕將軍軍令嚴緊，少頃便來查看。我若留二位在此，都不能箇乾淨。（92・1494）

3. 清潔

『現漢』には「清潔である」という意味があげられているが、『水滸』では「罪を犯していない」という意味で用いられている。

楊雄道：兄弟何必說得！你身上清潔，我已知了，都是那婦人謊說。（46・761）

4. 整齊

『現漢』には(1)「秩序がある、整っている」(2)「整える」(3)「(外形が規則的で)完全に整っている」(4)「(大きさや長さが)そろっている」という意味があげられている。『水滸』では(1)の意味で用いられている。

(1) 秩序がある、整っている

方才備辦得了，卻望見軍馬出城。看那軍馬時，擺得整齊。（34・532）

長老選了吉日良時，教鳴鴻鐘，擊動法鼓，就法堂內會集大眾。整整齊齊五六百僧人，盡披袈裟，都到法座下合掌作禮，分作兩班。（3・64）

這和尚把那婦人一引，引到一處樓上，卻是海閣黎的臥房，鋪設得十分整齊。（45・738）

卻說西門慶巴不到這一日，裹了頂新頭巾，穿了一套整整齊齊的衣服，帶了三五兩碎銀子，徑投這紫石街來。（24・376）

沒多時，只見一箇年紀小的和尚，揭起簾子入來。石秀看那和尚時，端的整齊。（45・732）

『水滸』ではこのほかに次のような意味で用いられている。

(1) そろっている。

入得城來，見這市井鬧熱，人煙輳集，車馬駢馳，一百二十行經商買賣，諸物行貨都有，端的整齊。(3・53)

你三人可就京師甲仗庫內，不拘數日，任意選揀衣甲盔刀，關領前去，務要軍馬整齊，好與對敵。(55・918)

(2) きれいである、みごとである

宋江看見道：美食不如美器。雖是個酒肆之中，端的好整齊器皿。(38・604)

戴宗叫酒保來問道：卻才魚湯，家生甚是整齊，魚卻腌了不中喫。別有甚好鮮魚時，另造些辣湯來與我這位官人醒酒。(38・604)

宋江看了，心中暗喜，自誇道：“這般整齊饌，濟楚器皿，端的是好個江州。… (39・619)

B. 『現漢』と同じもの

1. 不少 (多い)

想這頭陀也自殺人不少。直到如今，那刀要便半夜裏嘯響。(27・430)

戴宗道：我喫一箇，你喫三箇，不少麼？李逵道：不濟事，一發做六箇來，我都包辦！(53・878)

2. 光明

『現漢』には (1)「明るい光」(名詞) (2)「明るい」(3)「(比喩的に) 明るい」(4)「私心がない」という意味があげられている。『水滸』では (2) の「明るい」という意味で用いられている。

看看天色漸晚，月色光明。衆匠人大半尚兀自在那里掙趲未辦的工程。(80・1321)

3. 廣大

『現漢』には (1)「(面積が) 広い」(2)「(範囲、規模が) 大きい」(3)「(人数が) 多い」という意味があげられている。『水滸』でも (1) の「(面積が) 広い」という意味で用いられている。

長老拿着空頭度牒而說偈曰：靈光一點，價值千金。佛法廣大，賜名智深。(3・65)

喬道清揚武耀威，高叫道：宋兵中再有手段高強，神通廣大的麼？(95・1521)

4. 黑暗

『現漢』には (1)「暗い」(2)「(社会が) 遅れている」という意味があげられている。『水滸』では (1) の「暗い」という意味で用いられている。

且說燕青來到後門牆外，伏在黑暗處。只見後門開處，早有一條漢子，拿了鑰匙來開後面牆門。(73・1236)

卻轉過北門來，又見黑氣遮天，烏雲蔽日，伸手不見掌，如黑暗地獄相似。(87・1427)

『水滸』ではこのほかに次のように「暗くする」という意味で用いられている。

宋江軍兵當被鄭魔君使妖法，黑暗了天地，迷蹤失路。衆將軍兵，難尋路徑。(117・1757)

5. 黒色 ((黒色の))

衆將看那人時，生得奇異：頭長兩塊肉角，遍體青黒色，赤發裸形，下體穿條黃裊，左手執一個鈴鐸。
(95・1518)

6. 金色 (金色の)

阮小二道：教授如今在一箇大財主家做門館教學。今來要對付十數尾金色鯉魚，要重十四五斤的，特來尋我們。(15・215)

馬前一將，擎着朱紅畫杆方天戟。這簇軍馬光輝，四邊渾如金色，…(88・1439)

7. 茂盛

『現漢』には(1)「(植物が) 茂る」(2)「(経済などが) 繁栄する」という意味があげられている。『水滸』では(1)の「(植物が) 茂る」という意味で用いられている。

行不過三二里多路，見座大林，青松茂盛，翠柏森然，紫桂亭亭，石欄隱隱，…(88・1445)

此一炷香，伏願今上天子萬歲萬萬歲，皇後齊肩，太子千秋，金枝茂盛，玉葉光輝，文武官僚同增祿位，天下太平，萬民樂業！(90・1469)

8. 明亮

『現漢』には(1)「明るい」(2)「(目が) 輝く」(3)「はっきりわかる」という意味があげられている。『水滸』では(1)の「明るい」という意味で用いられている。

宋江鑽出船上來看時，星光明亮，那立在船頭上的大漢，不是別人，…(37・586)

此時天色未甚明亮，那二百來人擁在門首，誰敢先入去，都懼怕花榮了得。(32・519)

三個人在艙裏望岸上時，火把也自去蘆葦中明亮。(37・584)

9. 平靜 ((心や環境が) 穏やかである)

你又形貌凶惡，倘有疏失，路程遙遠，如何得知。你且過幾時，打聽得平靜了，去取未遲。(42・684)

卻早報說，沿海諸處縣治，聽得蘇州已破，群賊各自逃散，海僻縣道，儘皆平靜了。(113・1702)

10. 強壯

『現漢』には(1)「(体が) 丈夫である」(2)「(体を) 丈夫にする」(動詞)という意味があげられている。『水滸』では(1)の「(体が) 丈夫である」という意味で用いられている。

陳瓘以下衆人，都點頭稱善。陳瓘傳令教宣贊、郝思文挑選強壯軍士五千，伏于西門內。(106・1611)
楊志便道：青州城池堅固，人馬強壯。又有呼延灼那廝英勇。(57・964)

11. 熱鬧

『現漢』には(1)「にぎやかである」(2)「にぎやかにする」(3)「にぎやかな様子」という意味があげられている。『水滸』では(1)の「にぎやかである」という意味で用いられている。

太公分付道：胡亂教師父在外面耳房中歇一宵。夜間如若外面熱鬧，不可出來窺望。(5・82)

智深看見東京熱鬧，市井喧譁，來到城中，陪個小心，問人道：大相國寺在何處？(6・101)

喚當直的問道：如何街上熱鬧？(61・1024)

12. 軟弱

『現漢』には(1)「(力が) ない」(2)「意気地がない」という意味があげられている。『水滸』でも同様な意味で用いられている。

(1) (力が) ない

把這新拿到的軍健，臉上刺了字號，選壯浪的分撥去各寨喂馬砍柴，軟弱的各處看車切草。(20・293)

(2) 意気地がない

武松撲翻身便拜道：哥哥陰魂不遠！你在世時軟弱，今日死後不見分明。(26・408)

13. 烏黑 (深い黒色の)

但見：疙疸臉橫生怪肉，玲瓏眼突出雙睛。腮邊長短淡黃鬚，身上交加烏黑點。渾如生鐵打成，疑是頑銅鑄就。(15・213)

14. 雄壯

『現漢』には(1)「(気魄や声の勢いが) 力強い」(2)「(体つきが) 堂堂としている」という意味があげられている。『水滸』では(2)の「(体つきが) 堂堂としている」という意味で用いられている。

強弩硬弓當要路，灰瓶炮石護垣牆。對敵盡皆雄壯士，當鋒多是少年郎。(48・796)

『水滸』ではこのほかに次のように「(建物や景色が) 壮大である」という意味で用いられている。

於路着人探路，直來到獨龍岡前。宋江勒馬，看那祝家莊時，果然雄壯。(48・796)

孔亮看見三關雄壯，槍刀劍戟如林，心下想道：聽得說梁山泊興旺，不想做下這等大事業。(58・970)

但見：城高地險，塹闊濠深。一周回鹿角交加，四下里排叉密布。敵樓雄壯，繽紛雜采旗幡。(61・1023)

上皇看見三關寨雄壯，慘然問曰：此是何所，卿等聚會于此？(120・1816)

15. 雪白 (雪のように白い)

中間擁着一個年少的壯士，坐在一疋雪白馬上，全付披挂了弓箭，手執一條銀槍。(47・787)

16. 衆多 ((人が) 多い)

次日，那捕盜巡檢領了濟州府帖文，與同何觀察兩個點起五百軍兵，同衆多做公的，一齊奔石碣村來。
(19・272)

衆多大戶並里正獵戶人等，輪番把盞，大碗大鍾，只顧勸李逵。(43・702)

宋江以人馬衆多，不便入城，就於城外扎寨。(91・1486)

C. 『水滸』にないもの

骯臟 (汚い)、白色 (白い)、薄弱 (薄弱である)、成熟 (成熟している)、純粹 (純粹である)、稠密 (稠密である)、粗糙 (粗い)、腐朽 (腐って朽ちている)、鞏固 (しっかりしている)、光滑 (つるつるしている)、廣泛 (広範囲である)、灰色 (灰色である)、健康 (健康である)、結實 (丈夫である)、流利 (流暢である)、清靜 (静かである)、旺盛 (盛んである)、衛生 (衛生的である)、稀薄 (薄い) 稀少 (少ない)、細膩 (きめ細かい)、细致 (緻密である)、棕色 (褐色である)

2. 事物のみえない性質を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 方便

『現漢』には(1)「便利である」(2)「便利にする」(動詞)(4)「十分なお金がある」(5)「大小便をする」という意味があげられている。『水滸』では以上のような意味とは異なる意味で用いられている。『水滸』における“方便”の意味を整理すると次のようになる。

(1) 面倒をみる。優遇する。助ける。

滿縣人見說拿得宋江，誰不愛惜他，都替他去知縣處告說討饒，備說宋江平日的好處。亦且閻婆惜家又沒了苦主，只是相公方便他則個。(36・564)

府尹道：據你說時，林衝事怎的方便他，施行斷遣？(8・124)

小人是牢城營差使人，被雪打濕了衣裳，借此火烘一烘，望乞方便。莊客道：你自烘便了，何妨得。(10・157)

王慶又把那見怪閃腦的事，細稟一遍道：實是腰肋疼痛，坐臥不寧，行走不動，非敢怠玩，望相公方便。
(102・1577)

(2) 方法、手段

那人道：我有十兩金子，送與姐姐打些釵環。老娘怎地做箇方便，教他和我廝會則箇。(65・1110)

燕青聽的，便去拜告李師師道：姐姐做箇方便。今夜教小弟得見聖顏，告的紙御筆赦書，赦了小弟罪犯，出自姐姐之德。(81・1339)

朱全道：老娘，自請放心歸去。今後飯食不必來送，小人自管待他。倘有方便處，可以救之。(51・843)

(3) 体裁が悪い。まずい。

董超道：卻怕使不的。開封府公文只叫解活的去，卻不曾教結果了他。亦且本人年紀又不高大，如何作的這緣故？倘有些兜答，恐不方便。(8・128)

(4) 機会

張清道：再搶河中糧船。太守道：將軍善覷方便。(70・1187)

童貫道：天色將晚，你可善覷方便，疾去早來。(77・1286)

燕青又勸貫忠道：兄長恁般才略，同小弟到京師覷個方便，討個出身。(90・1473)

在下頗知些拳棒，待後覷箇方便，就在本州討箇出身。(104・1596)

2. 必要

『現漢』には「必要である」という意味があげられている。『水滸』にも同じ文字連鎖が見られるが、これは「必+要」の2語と解した方がよさそうである。『水滸』の次の例は「必ず必要である」の意味である。

且收放櫃上，取三四瓶好酒來。客到時，果品酒饌只顧將來，不必要問。(10・150)

また、次の例は「必ず～するつもりである」の意味である。

宋江指着高廉罵道：昨夜我不曾到，兄弟們誤折一陣。今日我必要把你誅盡殺絕！(52・865)

史進歸到廳前，尋思：這廝們大弄，必要來薙惱村坊。(2・27)

呼延灼道：恩相放心，小將必要擒此背義之賊。適間和他鬪時，棍法已自亂了。來日教恩相看我立斬此賊。(58・973)

3. 堅固

『現漢』には「堅固である」という意味があげられている。『水滸』でも同様に用いられている。

吳用、朱武上雲梯，看了城池形勢，下來對宋江道：這座城堅固，攻打無益，且揚示攻打之意，再看機會。(106・1610)

楊志便道：“青州城池堅固，人馬強壯，又有呼延灼那廝英勇。(57・964)

『水滸』ではその他に「(管理が) 厳しい」という意味でも用いられている。

你弟兄兩箇，早早晚晚，可緊可慢，在意堅固管候發落，休得時刻怠慢。(63・1071)

4. 緊急

『現漢』には「緊急である、差し迫っている」という意味があげられている。『水滸』でもそのような意味で用いられている。

武松見事務看看緊急，便收拾包裹要行。(31・483)

宋江向前稟道：奉濟州府公文，為賊情緊急公務，特差緝捕使臣何觀察到此下文書。(18・264)

正憂悶間，只見門吏報道：東京太師府裏差府幹見到廳前，有緊急公文要見相公。(17・248)

施恩相別出門來，徑回營裏，又尋一個和葉孔目知契的人，送一百兩銀子與他，只求早早緊急決斷。(30・465)

『水滸』ではこの他に次のような意味で用いられている。

(1) (追手が) 差し迫る

林冲道：實不相瞞，如今官司追捕小人緊急，無安身處，特投這山寨裏里好漢入夥，因此要去。(11・166)

後來為報父仇，殺死二人。因官府追捕緊急，棄家逃走。(94・1513)

正逢着盧先鋒，大殺一陣，便望深山小路而走。背後追趕得緊急，只得棄了戰馬，奔走山下逃命。(115・1728)

(2) (閉め方が) きつい

但見：面如金紙，體似枯柴。悠悠無七魄三魂，細細只一絲兩氣。牙關緊急，連朝水米不沾唇；心膈膨脹，盡日藥丸難下腹。(52・858)

(3) (攻撃が) 激しい

如要水火，直待夜間。爬下來淨手。只等城外哥哥軍馬打的緊急時，然後卻就寶嚴寺塔上放起火來為號。(84・1390)

今日見賊人將蕭讓等三個拚扒，又聽得宋兵為蕭讓等攻城緊急，軍民都有驚恐之狀。(108・1629)

5. 密切

『現漢』には(1)「(関係が) 密接である」(2)「(関係を) 密接にする」(動詞) (3)「(問題等について) 十分配慮する」という意味があげられている。『水滸』にはそのような用法は見られず、次のように「秘かに」という意味で用いられている。

書上只說教把犯人宋江切不可施行，便須密切差的當人員解赴東京，問了詳細，定行處決示衆，斷絕童謠。(39・629)

背後説：妖人宋江，今上自要他看，可令牢固陷車盛載，密切差的當人員，連夜解上京師。沿途休教走失。
(40・641)

6. 便宜

『現漢』には (1)「(値段が) 安い」(2)「(得るべきでない) 利益 (名詞) (3)「(得るべきでない) 利益を与える」(動詞) という意味があげられている。『水滸』には (1) の「安い」という用法はなく、次のように「利益」の意味で用いられている。

林冲道：小人在太尉府裏折了些便宜，前日方才吃棒，棒瘡舉發。這般炎熱，上下只得擔待一步。(8・128)

你看我着些甜糖，抹在這廝鼻子上，只叫他舐不着。那廝會討縣裡人便宜，且教他來老娘手裡納些敗缺！
(24・369)

我一時被那廝封住了手，施展不得，多蒙足下氣力救了我這場便宜。一時間只顧趕了那廝去奪他包袱，卻撇了足下。(44・721)

7. 模糊

『現漢』には (1)「はつきりしない、ぼんやりする」(2)「あいまいにする」という意味があげられている。『水滸』では「(血が) べつとりとしている」という意味で用いられている。

心窩裡如雪刃相侵，滿腹中似鋼刀亂攪。痛剛剛煙生七竅，直挺挺鮮血模糊。渾身冰冷，口內涎流。(25・399)

將軍撚箭，一發端的不差。孤影向雲中倒墜，數聲在草內哀鳴。血模糊半碗綠稍翎，大寨下眾人齊喝采。
(35・555)

8. 所有

『現漢』には (1)「所有する」(2)「所有物」(3)「すべての」という意味があげられている。『水滸』でも (3) の「すべての」という意味で用いられている。

吳用再使時遷，扮作伏路小軍，去曾頭市寨中，探聽他不出何意。所有陷坑，暗暗地記着有幾處，離寨多少路遠，總有幾處。(68・1154)

只有梁山泊晁天王靈位，未曾安厝。亦有各家老小家眷，未曾發送還鄉。所有城垣，未曾拆毀。戰船亦未曾將來。(83・1370)

宋江立在城樓下女牆邊，指着盧俊義說道：兄弟，所有宋朝賞罰不明，奸臣當道，讒佞專權，我已順了大遼國主，汝可回心，也來幫助我，… (85・1407)

『水滸』ではこの他に「～という」という不定をあらわす意味で用いられている。これは「存在する」という意味から生まれたものと思われる。

楊雄道：此間有三箇村坊結併。所有東村李大官人，前日已被祝彪那廝射了一箭，見今在莊上養疾。(48・794)

海閣黎道：胡道，你既如此好心說時，我不瞞你。所有潘公的女兒要和我來往。約定後門首，但有香卓兒在外時，便是教我來。(45・740)

劉高拆開封皮，讀道：花榮拜上僚兄相公座前：所有薄親劉丈，近日從濟州來，因看燈火，誤犯尊威，萬乞情恕放免，自當道謝。(32・518)

9. 詳細

『現漢』には(1)「詳しく知っている」(2)「詳しい」という意味があげられているが、『水滸』では次のように用いられている。

(1) 詳しい

望見山嶺之西下面深谷中，隱隱的有一簇人馬，被樹林叢密遮蔽了，不能夠看得詳細。(108・1623)

(2) 詳しいこと

書上只說教把犯人宋江切不可施行，便須密切差的當人員解赴東京，問了詳細，定行處決示衆，斷絕童謠。(39・629)

曹正聽得說桃花山有書，先來問了詳細，直去殿上稟復三個大頭領知道。(57・960)

原來喬道清生長涇原，是極西北地面，與山東道路遙遠，不知宋江等衆兄弟詳細。(96・1524)

10. 新鮮

『現漢』には(1)「(果物、花、空氣等が)新鮮である」(2)「(事物が)出現して間もない、(経験が)浅い」という意味があげられている。『水滸』でも「新鮮である」という意味で用いられている。

自醞的好酒，水泊裡出的新鮮蓮藕，山南樹上自有時新的桃杏梅李枇杷山棗柿栗之類，…(20・292)

等大王酒醒時，卻請起來剖這牛子心肝做醒酒湯。我們大家喫塊新鮮肉。(32・502)

『水滸』ではこの他に「(色が)鮮やかである」という意味で用いられている。

次日五更時分，眾道士起來，備下香湯齋供，請太尉起來，香湯沐浴，換了一身新鮮布衣，腳下穿上麻鞋草履，喫了素齋，取過丹詔，…(1・4)

次日，柴進穿一身整整齊齊的衣服，頭上巾幘新鮮，腳下鞋襪幹淨。(72・1214)

黃文炳接書在手，從頭至尾，讀了一遍，卷過來看了封皮，又見圖書新鮮。(40・641)

11. 要緊

『現漢』には(1)「重要である」(2)「(病気などが)ひどい」(3)「急いで(やる)」(方言)という

意味があげられている。『水滸』でも (1) ～ (3) の意味で用いられている。

李小二慌忙道：恩人請坐，小人卻待正要尋恩人，有些要緊話說。(10・151)

宋江道，觀察到敝縣，不知上司有何公務？何濤道：實不相瞞押司，來貴縣有幾個要緊的人。(18・260)

祝彪道：我也出前門捉宋江，是要緊的賊首。(50・827)

『水滸』ではこの他に次のような意味で用いられている。

(1) (対応が) 厳しい

他若擺布得我要緊，只索逃走他處，再作道理。(103・1586)

不想官司追捉的洒家要緊，那員外賠錢去送俺五臺山智真長老處落發為僧。(5・88)

(2) 重要視する

原來宋江是箇好漢，只愛學使鎗棒，於女色上不十分要緊。(21・306)

12. 一樣

『現漢』には「同じである」という意味があげられており、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
看那船時，每隻船上只有五個人。四個人搖着雙櫓，船頭上立着一個人，頭帶絳紅巾，都一樣身穿紅羅繡襖，手裏各拿着留客住，三隻船上人都一般打扮。(20・291)

『水滸』ではこの他に「一種類」という意味で用いられている。

武松道：再有怎地安排我？衆人道：再有一樣，也是把你來捆捆了，卻把一個布袋，盛一袋黃沙，將來壓在你身上。(28・439)

李逵道：我的法只是一樣，都沒甚麼鳥符。身到房裏，便揪出鬼來。(73・1228)

13. 真正

『現漢』には (1)「真の」(2)「真に」(副詞) という意味があげられている。『水滸』では次のように「正常である」という意味で用いられている。

柴進時常奏說：陛下氣色真正，只被罡星沖犯，尚有半年不安。(116・1743)

B. 『現漢』と同じもの

1. 安穩

『現漢』には (1)「安定している」(2)「平穩である、平静である」(3)「(態度が) 落ち着いている」という意味があげられている。『水滸』では (2)「平穩である」という意味で用いられている。

看着宋江便說道：小人何處不尋過，原來卻在這裡吃酒耍。好吃得安穩！(21・311)

這酒食不明，我如何吃得安穩？你只說與我，你那小管營是甚麼樣人？在那里曾和我相會？(28・442)

2. 不錯

『現漢』には(1)「正しい」(2)「良い」という意味があげられている。『水滸』では(1)の「正しい」という意味で用いられている。

郎主若得這夥軍馬，來觀中原，如同反掌。臣不敢自專，乞郎主聖鑒不錯。(85・1397)

葉清聽罷，把那無窮的眼淚，都落在肚裏去了。便對軍士說：我也認得不錯，卻是我的舊鄰宋老的女兒。(98・1538)

3. 不得已

『現漢』には「やむをえない」という意味があげられている。『水滸』でも同様の意味で用いられている。

朱武哭道：小人等三個，累被官司逼迫，不得已上山落草。(2・30)

衆人牽過一疋馬來，扶策太尉上了馬。不得已隨眾同行。(59・988)

和尚道：便是曾家畜生薨惱，不得已各自歸俗去了。只有長老併幾個侍者，自在塔院裏居住。(60・1009)

4. 不利

『現漢』には(1)「不利である」という意味があげられている。『水滸』でも同様な意味で用いられている。

吳用道：山寨裡晁頭領多聽得哥哥先次進兵不利，特地使將吳用並五箇頭領來助戰。不知近日勝敗如何？(48・800)

宋江勸道：哥哥方纔出軍，風吹折認旗，於軍不利。不若停待幾時，卻去和那廝理會，未為晚矣。(60・1007)

他知道哥哥打祝家莊不利，特獻這條計策來入夥，以為進身之報，隨後便至。(49・805)

5. 不幸

『現漢』には(1)「不幸である」(2)「不幸」(名詞)という意味があげられている。『水滸』では(1)の「不幸である」という意味で用いられている。

小人先妻是微末出身，卻倒百伶百俐，是件都替的小人。如今不幸，他歿了已得三年，家裡的事都七顛八倒。為何小人只是走了出來？(24・378)

那十箇廂禁軍，雨汗通流，都嘆氣吹噓，對老都管說道：我們不幸做了軍健，情知道被差出來。這般火似熱的天氣，又挑着重擔。(16・230)

那婆娘答道：因患心疼病症，一日日越重了，看看不能勾好，不幸昨夜三更死了。(25・400)

6. 差不多

『現漢』には(1)「ほとんど同じ」(2)「ほとんどの」(3)「大体」(副詞)という意味があげられている。『水滸』では(1)の「ほとんど同じ」という意味で用いられている。

衆將看他兩箇本事，都是半斤八兩的，打扮也差不多。(107・1618)

7. 湊巧

『現漢』には(1)「ある時、場にちょうど出つくわす」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

且說西門慶自在房里，便斟酒來勸那婦人。卻把袖子在卓上一拂，把那雙筯拂落地下。也是緣法湊巧，那雙筯正落在婦人腳邊。(24・379)

武松道：大哥也說的是。我也有心，恨時辰未到，緣法不能湊巧。今日既是殺了人，事發了，沒潛身處，此為最妙。(31・482)

再縛幾個火把，直來佛殿下後檐點着，燒起來。湊巧風緊，刮刮雜雜地火起，竟天價燒起來。(6・100)

太尉道：正在緊要的時節，來的恁般湊巧！(97・1534)

8. 當真

『現漢』には(1)「本当にする」(動詞)(2)「確かに」(副詞)という意味があげられている。『水滸』では(1)の「本当にする」の意味で用いられている。

那婦人通紅了臉，便收拾了杯盤盞碟，口裏說道：“我自作樂耍子，不值得便當真起來，好不識人敬重！”(24・362)

9. 公平

『現漢』には(1)「公平である」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

有詩為證：三家對證已分明，方顯公平正大情。此日負荊甘請罪，可憐樽沓愧余生。(73・1233)

未經半月之間，方臘及內外官僚，無一人不喜柴進。次後，方臘見柴進署事公平，盡心喜愛。(116・1743)

10. 共同

『現漢』には(1)「共通する」(2)「ともに」(副詞)という意味があげられているが、『水滸』では(2)の「ともに」という意味で用いられている。

宋江道：此是易為之事。你且放心。先來拜見晁頭領，共同商議。(58・971)

張清看見，大罵董平：我和你隣近州府，唇齒之邦，共同滅賊，正當其理。你今緣何反背朝廷？豈不自羞！(70・1184)

11. 明白

『現漢』には(1)「はっきりしている」(2)「聡明である」(3)「わかる」(動詞)という意味があげられているが、『水滸』では(1)(3)の意味で用いられる。

(1) はっきりしている

知縣見了大喜。看罷回書，已知金銀寶物交得明白，賞了武松一錠大銀，酒食管待，不必用說。(26・407)

原來你這廝外貌相人，倒有這等賊心賊肝！既然贓證明白，沒話說了。(30・464)

王慶在牆外聽他每三個一遞一句，說得明白，心中大怒。(103・1587)

(2) わかる

他雖一時聽信了這婦人說，心中恁我，我也分別不得。務要與他明白了此一事。(45・745)

石秀卻自尋思道：楊雄與我結交，我若不明白得此事，枉送了他的性命。(45・745)

12. 平安

『現漢』には「平安である、無事である」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

宋江接來看時，封皮逆封着，又沒平安二字。宋江心內越是疑惑。連忙扯開封皮，從頭讀至一半，…(35・552)

朱貴扯開，卻是一封家書。見封皮上面寫道：平安家書，百拜奉上父親大人膝下，男蔡德章謹封。(39・627)

李逵喏喏連聲而退。梁山泊自此人馬平安，都無甚事。每日在山寨中教演武藝，操練人馬。(74・1249)

13. 平常

『現漢』には(1)「普通である、並である」(2)「日頃」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の「普通である、並である」という意味で用いられている。

我又沒十分本事。杜遷、宋萬，武藝也只平常。如今不爭添了這個人。他是京師禁軍教頭，必然好武藝。(11・168)

14. 其他

『現漢』には「その他」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

柴進道：這位非比其他的，乃是八十萬禁軍教頭。師父如何輕慢。(9・140)

柴進乃言：二位教頭比試，非比其他，這錠銀子權為利物。若是贏的，便將此銀子去。(9・141)

此三卷之書，可以善觀熟視。只可與天機星同觀，其他皆不可見。(42・679)

15. 其余

『現漢』には(1)「残りの」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

武松又問道：還有甚麼法度害我？衆人道：只是這兩件怕人些，其余的也不打緊。(28・439)

一面把祝家莊多餘糧米，盡數裝載上車。金銀財賦，犒賞三軍衆將。其余牛羊騾馬等物，將去山中支用。
(50・830)

宋江傳令：只留下楊林、白勝看寨，其余人馬退去舊寨內將息。(52・865)

16. 奇怪

『現漢』には(1)「奇怪である」(2)「奇怪に思う」(動詞)という意味があげられている。

『水滸』でも(1)の「奇怪である」という意味で用いられている。

宋江看這人時，雖是骨瘦形羸，卻甚生得奇怪。(60・1005)

洒家看穴中時，旁邊又有一穴，透出亮光來。洒家走進去觀看，卻是奇怪，一般有天有日，亦有村莊房舍。
(99・1553)

聽得馬蹄響，立起身往外看了，叫聲：奇怪！這裡那得有馬經過？仔細看時，後面馬上，卻是主人。(90・1472)

17. 恰好

『現漢』には(1)「ちょうど良い」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

王婆便道：大官人不來時，老身也不敢來宅上相請。一者緣法，二乃來得恰好。(24・377)

武松喫了道：好酒！又篩下一碗，恰好喫了三碗酒，再也不來篩。(23・343)

正解將來見宋江，恰好遇着李逵，只一斧砍翻祝彪頭來。莊客都四散走了。(50・828)

18. 容易

『現漢』には(1)「易しい」(2)「～しがちである」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の「易しい」という意味で用いられている。

老都管道：這個容易，老漢今晚便稟太尉得知。(7・117)

假如維那、侍者、書記、首座，這都是清職，不容易得做。都寺、監寺、提點、院主，這個都是掌管常住財物。(6・104)

西門慶道：這個極容易醫治，我只聽你的言情便了。(24・371)

19. 完全

『現漢』には(1)「完全である、欠けることがない」(2)「完全に」(副詞)という意味があげられている。
『水滸』では(1)「完全である、欠けることがない」の意味で用いられている。

吳用勸道：主帥休說此言，以懈軍心。當初破大遼之時，大小完全回京，皆是天數。今番折了兄弟們，此是各人壽數。(113・1692)

20. 危險

『現漢』には「危險である」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
魯提轄剃除頭髮，削去髭鬚，倒換過殺人姓名，薙惱殺諸佛羅漢。直教禪杖打開危險路，戒刀殺盡不平人。
(3・54)

21. 無限

『現漢』には「無限である」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
那婆子歡喜無限，接入房裏坐下，便濃濃地點薑茶，撒上些松子、胡桃，遞與這婦人喫了。(24・374)
高俅惶恐無限，卻再入席，飲至夜深，扶入後堂歇了。(80・1328)
善會偷香竊玉，慣的賣俏行奸。凝眸呆想立人前，俊俏風流無限。(101・1572)
十字街頭，無限強魂等候。監斬官忙施號令，忤作子準備扛屍。(40・645)

22. 無用

『現漢』には語として採録されていないが現代語では「役に立たない」という意味で用いられる。『水滸』でも同様の意味で用いられている。
便是保正與兄十分了得，也擔負不下這段事。須得七八個好漢方可，多也無用。(14・208)
那婦人應道：拙夫是無用之人，官人休要笑話。(24・376)
今晚傳令與各寨，盡數都起，先劫宋江大寨。如斷去蛇首，衆賊無用。回來卻殺李逵等五人未遲。(68・1160)

23. 稀罕

『現漢』には(1)「珍しい」(2)「珍重する」という意味があげられている。『水滸』では(1)の「珍しい」という意味で用いられている。
主人再三上覆媽媽，啓動了花魁娘子。山東海僻之地，無甚希罕之物，便有些出產之物，將來也不中意。
(72・1220)
衆人都道：你項上帶着箇枷兒，卻如何輪棒？王慶道：只這節兒稀罕。帶着行枷贏了他，纔算手段。(102・1580)

24. 稀奇

『現漢』には「珍しい」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
王婆接了這物，分付伴當回去。正是：兩意相交似蜜脾，王婆撮合更稀奇。安排十件挨光事，管取交歡不負期。(24・373)

25. 相似

『現漢』には「似ている」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
原來那扮太尉的小嘍囉，雖然模樣相似，卻語言發放不得。因此只教粧做染病，把靠褥圍定在床上坐。
(59・989)

適纔見他的法，與小弟比肩相似，小弟卻得本師羅真人傳授五雷正法，所以破得他的法。(96・1527)
此人乃是漢末三分義勇武安王嫡派子孫，姓關名勝，生的規模與祖上雲長相似，使一口青龍偃月刀，人稱為大刀關勝。(10・1078)

26. 相同

『現漢』には「同じである」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。
寫了招解送文書，把一千人審問相同，讀款狀與武松聽了。(27・424)
蔡九知府再把戴宗拷訊了一回，語言前後相同。說道：不必問了。取具大枷枷了，下在牢裏。(40・643)
天子在披香殿上，官家與元景閑論，問起義士，以此元景奏知此事。不期天子已知備細，與某所奏相同。
(82・1352)

27. 一切

『現漢』には(1)「すべての」(1)「すべてのもの」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

堂内鋪設七寶三清聖像。兩班設二十八宿，十二宮辰，一切主醮星官真宰。堂外仍設監壇崔、盧、鄧、竇神將。(71・1194)

掌管專一排設筵宴一員，鐵扇子宋清。掌管監造供應一切酒醋一員，笑面虎朱富。(71・1204)

金大堅鑄造兵符印信。一切完備。選定吉日良時，殺牛宰馬，祭獻天地神明。(71・1200)

28. 一般

『現漢』には(1)「同じ」(2)「種類」(3)「普通である」という意味があげられているが、『水滸』では(1)(2)の意味で用いられている。

(1) 同じ

外面火把光中，照見鋼叉、朴刀、五股叉、留客住，擺得似麻林一般。(2・34)

你是個賣肉的操刀屠戶，狗一般的人，也叫做鎮關西！(3・51)

你們且沒奈何，休與他一般見識。(3・66)

(2) 一種類

這浮浪子弟門風，幫閑之事，無一般不曉，無一般不會，更無般不愛。更兼琴棋書畫，儒釋道教，無所不通。(2・17)

29. 有用

『現漢』には語として採録されていないが現代語では「役に立つ」という意味で用いられる。『水滸』でも同様の意味で用いられている。

朱全道：非是小人不起，其實月黑了，沒做道理處。這些土兵全無幾個有用的人，不敢向前！(18・266)

這娘娘呼我做星主，想我前生非等閑人也。這三卷天書必然有用，分付我的四句天言，不曾忘了。(42・680)

且說凌振把應有用的煙火藥料，就將做下的諸色火炮，並一應的炮石、炮架，裝載上車，…(55・925)

30. 仔細

『現漢』には(1)「細かい」(2)「注意する」(3)「節約する」(方言)という意味があげられているが、『水滸』では(1)の「細かい」という意味で用いられている。

府尹叫進後堂來說，仔細問了來歷。何清一一稟說了。(18・258)

次早回時，又是五更時候，天色昏暗，不十分看得仔細。(40・643)

只見個人從靈床底下鑽將出來，叫聲：兄弟，我死得好苦！武松看不仔細。卻待向前來再問時，只見冷氣散了，不見了人。(26・409)

C. 『水滸』にないもの

安全(安全である)、寶貴(大切である)、不得了(どうにもならない)、徹底(徹底している)、錯誤(違っている)、當真(ほんとうである)、惡劣(下品である)、複雜(複雑である)、公開(公然の)、貴重(貴重である)、合理(合理的である)、合適(ぴったりしている)、基本(基本の)、艱難(困難である)、尖銳(鋭い)、簡單(簡単である)、精採(すばらしい)、經常(いつもきまった)、絕對(絶対の)、具體(具體的である)、可靠(頼れる)、困難(困難である)、累贅(煩わしい)、了不得(へんである)、了不起(たいしたものである)、麻煩(煩わしい)、美好(すばらしい)、秘密(秘密の)、明確(明確である)、明顯(はっきりしている)、片面(一面的である)、普遍(普遍的である)、起碼(最低の)、清楚(はっきりしている)、全部(全部の)、全面(全面的である)、確實(確

実である)、任何(いかなる)、深刻(深い)、實際(實際の)、適當(適當である)、順利(順調である)、所謂(いわゆる)、特別(特別である)、同様(同様の)、統一(統一した)、妥當(妥當である)、相反(相反する)、嚴密(密接である)、嚴重(おごそかである)、一部分(一部分の)、永久(永久の)、糟糕(だめである)、正常(正常である)、正確(正しい)、正式(正式である)、重要(重要である)、主要(主要な)

参考文献

- 漢語大詞典 羅竹風 漢語大詞典出版社 1989 年
近代漢語詞典 許少峰 團結出版社 1997 年
近代漢語詞典 高文達 知識出版社 1992 年
中國古典小說用語詞典 田宋堯 出版事業公司 民國 74 年
宋元語言詞典 龍潛安 上海辭書出版社 1985 年
小說詞語匯釋 陸澹安 上海古籍出版社 1979 年
現代漢語詞典 (第 5 版) 商務印書館 2005 年
國語詞典 (節本) 臺灣商務印書館 民國 58 年
水滸全傳 鄭振鐸校訂 人民文學出版社 1954 年
普通話三千常用詞表 (增訂本) 鄭林曦 文字改革出版社 1987 年
中國語大辭典 大東文化大學中國語大辭典編纂室 角川書店 平成 6 年
水滸辭典 漢語大辭典出版社 1989 年
『水滸』語彙と現代語 香版順一 光生館 1995 年
完譯水滸傳 吉川幸次郎・清水茂 岩波出版社 1995 年

(2006 年 9 月 25 日受理)